

# タガメ

*Lethocerus deyrollei*



〈カメムシ目 コオイムシ科〉

日本最大の水生昆虫であり日本最大のカメムシでもある。

鎌のようになった前脚は強力で、自分の体調の倍近い獲物を押さえつける事が出来る。

メスは水上に突き出した植物に産卵、オスがそれを守るという言わば『イクメン』な昆虫でもある。

農薬の使用や商業目的の乱獲により大きく数を減らした。

# コオイムシ

*Diplonychus japonicus*



〈カメムシ目 コオイムシ科〉

水生カメムシの中では比較的身近な種。

名前の通り、繁殖期にはメスがオスの背中に産卵し、オスは卵が孵化するまでそれを背負い続ける。タガメと並ぶ『イクメン』な昆虫。

別種で少し大型のオオコオイムシ (*D. major*) が存在するが、一目見ただけでは見分けは難しい。

# タイコウチ

*Laccotrephes japonensis*



〈カメムシ目 タイコウチ科〉

ミズカマキリ程では無いが、長い呼吸管を持つ。  
やや浅い水深を好み、同じような生態を持つミズ  
カマキリと棲み分けている。

タイコウチという名は、前脚を広げて水中を泳ぐ  
姿が『太鼓を打つ』ように見えたため付けられたと  
される。

# ミズカマキリ

## *Ranatra unicolor*



〈カメムシ目 タイコウチ科〉

長く伸びた呼吸管が特徴。

その名の通り、カマキリに見えなくもないが…もちろん全く異なる仲間の昆虫である。

前脚は細長く、それほど強力では無いようで、捕えた獲物に逃げられるシーンを飼育しているとよく目にする。

水質汚染には比較的強く、都市近郊においてもその姿を見ることができる。

# ヒメミズカマキリ

## *Ranatra chinensis*



〈カメムシ目 タイコウチ科〉

その名の通り、ミズカマキリを小型にしたような形の水生昆虫。

当然、魚などの大型の獲物を捕らえることは難しいため、アメンボなどの小型の水生昆虫を餌とする。なお、飼育下では釣りエサ用のアカムシを与えている。

水草の多い環境を好むようで、山間部のため池などではいまだに多くの個体数が保たれている。

# マツモムシ

## *Notonecta triguttata*



〈カメムシ目 マツモムシ科〉

水面近くを背泳ぎで泳ぐのが特徴の水生カメムシ。

鋭い口は人間が刺されても強烈に痛い、かなり痛い。その鋭い口と鎌状の前脚で小魚や、水面に落下した昆虫を捕える。

その名の通り、マツモ等の水草が茂るような池で多く見られる。

# ゲンゴロウ

## *Cybister japonicus*



〈甲虫目 ゲンゴロウ科〉

世界のゲンゴロウ類の中でも最大級の大きさであり、日本が世界に誇れるゲンゴロウ。

特に本種を指す場合は、「ナミゲンゴロウ」や「ホンゲンゴロウ」などと呼ぶことが多い。

餌は魚の死骸などで、生きた獲物を捕らえることは少ない。

農薬の使用や水田の区画整理により大きく減少した。

# クロゲンゴロウ

## *Cybister brevis*



〈甲虫目 ゲンゴロウ科〉

黒緑～黒色の体色が特徴のゲンゴロウ。

ナミゲンゴロウと比べるとずいぶん小さく見えるが、これでもゲンゴロウ類の中では大型の部類に入るようだ。

大型ゲンゴロウの中では比較的水質汚染に強いが、それでも各地で減少している。



# シマゲンゴロウ

*Prodaticus bowringii*



〈甲虫目 ゲンゴロウ科〉

黒い上翅に入る4本の黄色いラインと2つの点が美しい中型のゲンゴロウ。

# コシマゲンゴロウ

*Hydaticus grammicus*



〈甲虫目 ゲンゴロウ科〉

黄色と黒のストライプが美しい中型のゲンゴロウ。ため池や流れの緩やかな水路などで多く見られる。

# ガムシ

## *Hydrophilus acuminatus*



〈甲虫目 ガムシ科〉

ガムシ科の昆虫の中では最大種。

成虫は水生昆虫の中では珍しく水草を主食とし、さらに動物質の餌も食べることがある雑食性。一方幼虫は生きた獲物を捕らえるハンターである。

繁殖期にはメスが水草などを集めて卵のうを作る。

腹側が銀色に光っているのは、その部分に空気を貯め込んでいるため。